

# 熊本「新老人の会」



## 平和特集号

## 会報

会長 小山 和作

事務局長 久米野 安俊

〒861-2234 熊本県上益城郡益城町古閑312-2

TEL/FAX 096-221-5113

発行 2020年10月

No.79

75年前の7月1日、熊本大空襲の夜を思い起こしながら  
絵筆をとりました  
赤木 満智子会員（93）



「あの恐ろしい夜」

## 目次

☆2020年 秋号	表紙	☆サークル活動	10
☆巻頭言	1	☆寄稿文 初代代表 伊佐会員	11
☆平和資料館建設	2	☆誌上で「城下町を歩く」	12
☆会員の平和活動	3～6	☆事務局通信・編集後記	13
☆日野原先生の本を読んで	7	☆サークル活動予定	14
☆会員文芸	8	☆広告	裏表紙
☆地域グループ活動	9		

## 巻頭言

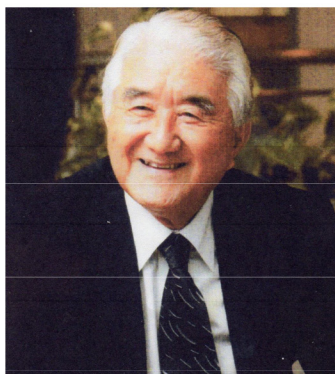
私たちの究極の目標は

いのちと平和を守ることに

熊本に戦争と平和の

ミュージアムを作ろう

会長 小山和作



新型コロナウイルス感染症が一向に収束の兆しがありません。こんな時こそ人類の共通の敵、感染症に世界が

人種を越え、民族を越え、政治信条を越えて一丸となって立ち向かうべき時だと考えるのは私だけではないでしょう。

同じことは世界の平和についてもいえることです。戦争を望んでいる人はいないはずです。ひとたび世界に戦争が起これば数百万人いや数千万人の命が亡くなります。仮に喧嘩好きの人がいて、嫌なことが重なり、戦争をしようとしても一人ではどうしようもないはずです。所が歴史を振り返る

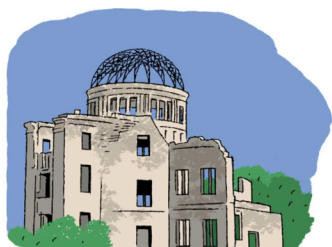
と戦争が繰り返し起きています。戦争は自然現象ではありません。人間が起きているのです。ことを起こすには理屈があるでしょう。しかし、いかなる理屈や正義があるにせよ戦争は許されるものではありません。

わが国では先の戦争が終わって75年、戦争を体験した人は少なくなりました。戦争を体験した人たちも戦争のことを多くは語るうとはしませんでした。日本の歴史家たちも我が国の近代史、特に昭和史については詳細な検証がなされていないように思います。従って、教科書にも先の戦争については表面的な事柄だけで詳細な記述がありません。そのため戦後の子供たちは戦争のことはほとんど知らないのです。どうして起こったのか、誰が起こしたのか、十分に検証されたとは言えないと思います。それは同じ立場のドイツとは大きく違ふところではあります。日本人の曖昧主義なのか、過ぎ去りしことを詮索しない寛容さのせいでしょうか。しかし、戦争の実態を知らないではま

た起こすかもしれません。

泥沼にはまり込んだ中国戦線、はるか南太平洋のソロモン群島まで戦線を広げ闘う武器弾薬もなく食べるものもなく数万人の将兵が亡くなったこと、広島・長崎の原爆による一瞬にして数十万人の被爆死、住民の3分の1が亡くなった沖縄戦、そして熊本大空襲で焼け野原になった市街地の様子、戦争の悲惨さ、むごたらしさ、非人間的行為、それらを目で見、肌で感じ、体験した人がいなくなりつつあります。

それならそれらの記憶を記録に残し、次の世代に繋いでいかねばなりません。私たちにはその責任があるとともに、使命があると考えます。それで同じ志を持つ人たちと心を合わせ、政・財・官・学・民あらゆる方々の協力を仰ぎ、是非熊本に戦争と平和のミュージアムを作りたいと思います。熊本「新老人の会」の総力を挙げて成し遂げたいと思います。会員の皆さんの知恵と力を出して下さい。



# 県知事・市長に協力要請

設立準備会が県庁・市役所訪問

安藤 富士記(90)

戦後 75年、あの悲惨な戦争を  
実体験した人は数少なくなって来  
ています。熊本はかつて軍都として  
多くの軍隊が存在していました。  
また特攻隊をも送り出した多数の  
飛行場もありました。大きな航空  
機工場もありましたが、それらの  
多くが壊されています。今保存し  
なければ戦争の記憶とともに消え  
てしまいます。

## 平和資料館建設を目指して

字が生まれたのも  
この戦いでした。  
これら郷土の戦争



設立準備会 事務局会議

遺産を次世代に残すのは私たち熊本「新老  
人の会」の会員の務めかもしれません。

そのような想いをこめて一昨年春「新  
老人の会」が中心になって「戦争と平和の  
ミュージアム『ピースくまもと(仮)』設  
立準備会事務局会」(代表小山和作会長・  
事務局長高谷和生)が発足しました。

会館設立には、政・官・財・学・民の総  
力を結集した一大県民運動が必要です。そ  
の第一歩として、県知事、市長への協力要  
請を行いました。

熊本県へは8月5日、小山、安藤、高谷  
で県庁を訪ねまし  
た。知事は熊本豪  
雨対策で不在、社  
会福祉課長が対応  
しましたが、要請  
書を届けるのみに  
とどまりました。



県庁にて

翌8月6日、小山、安藤、上村、高谷  
で熊本市を訪ねました。市はきわめて丁寧  
で、市長はじめ局長クラスの幹部10名の対  
応で、予定時間を遙かにオーバーし40分に  
亘り話し合いました。大西市長は「戦争の  
惨禍は広く市民県民に知っていただくこと

が大事で行政  
としても取り  
組む必要があ  
る」と述べら  
れました。

なお贈呈し  
たヤフー作成  
の『熊本空襲  
DVD』『リ  
フレット空  
襲下の熊本』  
『軍都熊本の  
残像』等を市  
立図書館や、  
学校現場等へ  
配布すること  
なども快く承諾いただきました。

会の活動はこれからが本番です。九月か  
ら準備会は毎月開くことにしました。設立  
の呼びかけ人の依頼、法人としての定款の  
制定、場所の選定等々…。年内には一応の  
目途が立つようにしたいものです。人も、  
お金も必要です。会員の皆様のご協力を切  
にお願ひします。



市役所にて

熊本日日新聞の熊本戦後75年記憶の足跡のコーナーに、会員お二人の記事が掲載されましたので、要約してご紹介いたします

「お国のために死ぬ」叩き込まれ

「幸せ」信じた軍国少年

十時 義七郎(92)



「貴様ら、お国のために死ぬ。それでみんなが幸せになれる」。城下町で育った16歳の青年は来る日も来る日も、陸軍士官学校の上官からそうしたき込まれた。日本軍の優勢を信じ、死ぬことをいとわなかった時代から75年。士官学校在学中に終戦を迎え、「本当のことを知ることができ、本当のことと言える幸せ。もう戦争なんてしてはいけない」と語る。

父親から「軍人になれ」と言われ、熊本中4年生11月、埼玉県朝霞市の陸軍予科士官学校に入校。厳しい訓練と上官の叱責に堪える日々に、星空を眺めてはふるさとを思い、仲間には熊本城を自慢した。

45年8月15日、午前中の訓練の後「何か

あるらしい」と農家に集まった。ラジオから聞こえる声。戦争が終わったことを初めて知った。士官学校に入ってわずか10カ月。本土決戦はどうなったのか……。言葉にならない感情が渦巻いた。

熊本へ帰る途中、列車は「得体の知れない爆弾」が落ちた広島駅に止まった。街がすっかり消えていた。ほかの停車駅にも爆弾の跡があった。それらを目にして「日本は負けたんだ」と実感した。

今の時代をどう思うかとの問いに「夢みたい。何を見ても幸せ。今を『当たり前』だと感じているあなたたちよりも、私は幸せだと思うよ」。「戦争はすべきではないからこそ、それを避けるためにどうするべきか。常に考えなければいけない」

### 空襲3度 恐怖描き残す

肉親、家失った夜 題材に

赤木 満智子(93)

太平洋戦争末期、熊本大空襲など3度の空襲を経験した赤木さんが、記憶を後世に伝える渾身の油絵を描き上げた。大空襲では焼夷弾で家を焼かれ、祖父と叔父を奪われた。作品には「戦争はあってはならない」

という強い思いが満ちあふれている。

赤々と燃え上がる民家の屋根を、防空頭巾に、もんぺ姿の赤木さんが指さす。隣には消火用のバケツを手にした母と姉……。キャンバスに描いたのは1945年7月1日の深夜、熊本大空襲で実際に体験した出来事だ。

その一ヶ月余りたった8月10日、再び米軍機に襲われた。勤務先の出張で5月25日にも東京で大空襲を経験している。

「恐ろしい体験をした身として平和の大切さを伝えたい」と記憶を語ってきた。一方、「五十の手習い」で始めた油絵は風景画や人物画が中心だったが、今回初めて戦争を題材に描いた。

「子や孫たちの世代に、怖い思いをさせたくない」と絵画でも記憶を伝えたいと考えている。



(記事要約 堀田耕三)

# 「戦争の実際伝える必要」

## ノモンハン事件

8月14日「熊日」 8月15日「朝日」 両紙が1面トップ、他にページのほぼ全面をとってノモンハン事件を掲載している。

「事件は日中戦争中1939年5〜9月、旧満州と旧ソ連の衛星国だったモンゴルの国境紛争。戦車、飛行機の近代装備で数倍の兵員、物量のソ連・モンゴル軍に、小銃や火炎瓶で対抗した日本軍はほぼ全滅状態の完敗で国境も相手の要求どおりで終わった」と。ただ当時の国民は、満州で起きたごく小さな事件として「日本軍の勝利」



とだけ知らされていた。「朝日」は、当時の国際情勢を中心に日本軍部の判断の甘さ、関東軍の暴走等を解説している。

「熊日」1面

### 指揮官自決 戦病死扱い

#### ノモンハン敗戦熊本編成部隊

指揮官井置栄一騎兵中佐は、熊本編成の第23師団の搜索隊長として激戦地で指揮を執る。敵軍の猛攻により壊滅的な状況に陥る中で、このまま全滅するより生きて再起を図ろうと、残る少数の部下を連れ撤退すると、師団長より「無断の戦線離脱が敗戦の原因だ責任をとり自決を！」と警告され自決する。旧防衛庁の記録によると「独断守地を撤退した責任をとり自決の道を選んだ」と記されている。

遺族には翌月、中佐死亡の電報が届くが死因は記されていなかった。家族は、中佐の自決に疑問を抱く。

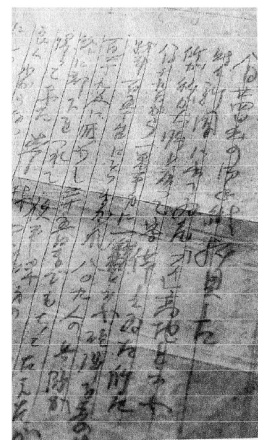
「熊日」別のページ

#### ノモンハン指揮官「強要」自決前に手紙

### 『にじむ悔しさ憤る遺族』

「祖父に責任を押し付け、死因まで偽って終わりというのは、やはり納得がいかない」。井置中佐の孫高木佐織さんは、事件から80年以上もの間、真相を追求してきた父や祖母の思いを代弁する。

井置家と交流があり事件の調査を続ける上村真理子さん（「新老人の会」会員）の手許には中佐が自決する直前に妻に送った手紙がある。



「軍人として少しも卑怯なことはしないから」安心を乞う。（中略）

今となつては長生きして、戦争の実際を世間に伝える必要がある。然らざれば失った多くの部下が成仏できないだろう…（後略）

この一文だけでも病死でないことは明らかであろう。

戦闘現場の指揮官の中には戦死者や他にも自決者が有り、兵員の死傷者は一万八千〜二万人といわれるが、部下に責任を押し付けた師団長、参謀等の上層部はその後大本営の要職に就き、太平洋戦争推進の中心になっていた。失態は部下に押し付け責任者は出世する。今も昔も同じか！。



（記事要約 安藤富士記）



# 『零の進軍』を読んで

宮本 英一 (72)

早いもので、戦後75年になります。戦争体験者（戦前生まれ）は、高齢化が進み、人口の1割程度になってしまいました。戦争を知らない世代に「戦争を、どう語り継いでいくのか」岐路に立たされています。

戦争を知らない世代の人たちに戦争の真実を広く伝え、『命と平和の大切さ』を考えてもらい、二度と戦争を繰り返さないようにと願って「新老人の会」熊本支部では、5年前に（故）吉岡義一さん著『零の進軍』上下巻が発刊されました。

私は中国戦線で戦死した父親の軌跡と重ね合わせ感動を持って読みました。改めてその一部を紹介します。

初年兵教育の時『軍人勅諭』を暗誦させられ

『義は山嶽より重く、死は鴻毛よりも軽しと覚悟せよ』と叩き込まれました。目的のためなら



に弱者が犠牲になる』戦争が人間の心を抜き取り獣以下に落とすのだ。

軍の非情さというより、軍隊とは戦争目的のためならどんなことでも平然と実行していく。

食料・弾薬の補給もなく、中国の農民が苦勞して育てた作物や豚や鶏などの食料を略奪したうえ、

兵隊が暖をとるために人家の木材・家具などを焼き尽くし、出て行くときは集落の人家は糞だらけのガランドウだった。行軍していく横には食べ物がなく餓死した中国人の



「命は鳥の羽毛より軽い、忠節を尽くして命を惜しむな」という教えだった。

また、ひとたび戦争という狂気の歯車が回転し始めると『常に真つ先

骸骨の山があった。と挿絵にも残っています。

終戦後は昭和20年10月から、21年末日まで、捕虜として湖北省の張村という農村に抑留され農家の手伝いをしておられたのですが、発刊当時、RKKが制作した『零の進軍』の紹介ニュースの取材時に、次のように回想されています。

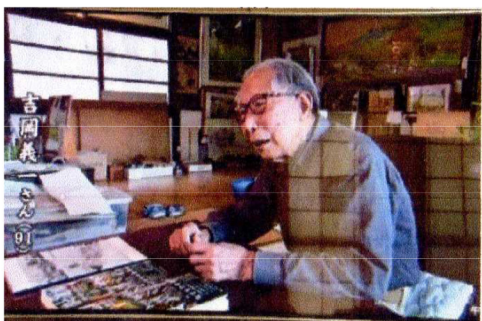
中国の農家の人達は私達に優しくしてくれました。日本軍が泥靴で踏みにつけて通って行った所ですよ。

忘れられないのは、手伝った農家から「食べなさい」と出されたニラと卵で作った「おじゃ」の味です。「味もなんも、わからんごつ、おいしかった」途切れそうな涙声で、取材を受けておられる吉岡さんの姿が忘れられません。

こうした中国人の人達との交流は、なんの恨みもない民族同士が殺し合う戦争の不条理さを教えてくれた。とも話されています。

下の写真は取材中の吉岡さん。

(当時91歳)



日野原先生の

「生きていくあなたへ」を読んで

会員の皆様のところへ、右記の本が届けられました。その読後感想をお寄せ頂きましたので紹介します。

松浦 慶子 (93)

「その深い悲しみもやがてはやさしい思いに変わる時が必ずきます」

毎朝7時に日野原先生のメッセージが携帯のメールに入っていました。それが2月に終わり寂しく感じていた時に「生きていくあなたへ」の本を送って頂き本当に有難うございました。

クリスマスチャンとして医者として、報いを望まず奉仕に生きられた先生は、本の中で「私の一番好きな言葉は『エンカウンター』私の人生での皆さんとの出会い。皆さんの思いと私の思いを合わせて、なおこの旅を続けていこうではありませんか」と書いていらっしやいます。

私も「新老人の会」に入り、皆さんとのすてきな出会いに心より感謝しています。

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、

一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」 新約聖書ヨハネ伝12章

佐久原 百合子 (84)

人の心を読み取ることの大切さ、そして人がお互いに支え合って生きる姿勢を備えることがお互いの満足度が高まり、そして今日自分が学んだ「人の思い」を自分の心の思いにもつなげる生き方を、そして実行する心の動きの出来る人間になることが生きる喜びにもつながります。

日野原先生が書いていらっしやることは、こんな事ではないでしょうか。



愛甲 京子 (83)

この本には、これから先の人生の生き方が書いてある。今まで考えもしなかった。今なら間に合う。これから永くない人生がヤボヤしていたら終わってしまう、間に合

ってよかった。これからは、毎日を大切に明るく笑顔で利他的に生活しようと思う。

長男が幼稚園の頃「受けるより与える方が幸せである」という言葉を教わってきた。又中学の入学式の校長先生のお言葉が「やるべきときにやるべきことをきちんとして、常に感謝の念を持ちそれを表す」であった。日野原先生のお言葉と共通点が多い気がした。今は、懐かしい思い出である。

大塚 裕子 (80)

この本で感動したのは、「死は命の終わりではない」の中の、次の一節である。「一粒の麦は地に落ちて死ななければ、一粒のままであるが、死ねば多くの実を結ぶ。」私は結婚以来、主婦として夫を支えるだけの毎日を送ってきましたが、最近、この世に何も残していない虚しさを感じるようになっていた時に、この本と出会い、胸のつかえが取れた気持ちになりました。

それは、子供二人の命をつなぎ、本人たちも幸福な生活を送っているのです。これ以上の幸せはあるまいと考え、この世での役目は十分に果たせたと感じ、安心してあの世に旅立ちたいと思います。



会 員 文 芸

川柳 9 月例会 古閑萬風選

父の怒り雑音として聞きながす 森上裕子

風の音眠れぬままに過去思う 江藤恵子

懐かしい若き日夫と夏の山 石原照枝

この夏はコロナ自粛で過つますのか 十時貴子

あぶら蟬暑い暑いと悲鳴上げ 山口玲子

モンブランの夏山小屋の冬景色 西村文夫

被災者に続く試練の暑い夏 加藤美寧

かき氷赤青黄色夏を食う 高橋純子

義母からの雑音あつて今がある 久米野郁子

よい目覚め今日も生きてる手を合わす

鬼塚和子

心臓の雑音調べ結果待ち 生森美代子

俳句 8 月句会 代理平川礁舎

短歌 会員 歌人詠

精霊船須磨の浜辺に流しけり 佐藤武敬

熊蟬や疫病なんか知らぬこと

あばれ川今は静かな晩夏光 岩城小夜子

面影の遙かになりて夏の星

積み捨てし水禍の跡や秋高し 澤田安月子

在りし日を偲びつつ組む盆灯籠

夏の果アクアドームの屋根眩し 山内良一

蝉しぐれ夕日に映ゆる普賢岳

緑蔭の黒猫の目の黄金色 小林優子

閑けさのさざ波に似て風鈴音

墓参りほおずきを手に坂上る 木村純子

突風の吹き攪ひたる夏帽子

夏シャツの衿ピンと立て山のシエフ 柳水興

台風のニュースひとりの仕事増え

下駄履いて甚兵衛を著て手に団扇 平川礁舎

水災の村に燃え立つ百日紅

中川 千鶴

三十七度 うだる炎暑に耐ゆる日々

列島温暖化の現実なりや

枯れがれて朝な夕なに水を撒く

瓢箪ぶらり屈託もなし

藤井 末津子

おいしそうカレント一口食べてみる

届けし人の心伝わる

友の来て楽しき会話盛り上がる

今日の一日めでたき日なり

俳句 会員 俳人詠

祝 正代閑初優勝 中川 久

秋場所の賜杯を胸に郷さと帰り

秋晴や郷土閑取初優勝

## 地域グループ活動の報告

前号の会報で山内副会長が述べた通り、地域グループの活動は難しい局面を迎えています。その中で北区のグループの集いが7月13日(月)に行われたので、その模様をまとめて頂きました。

北区交流会 「ペチャクチャ会」

趙 美麗(73)

北区交流会を開催しますとの連絡を頂きました。本当のところ訳もわからないまま、初めて参加しました。

会場は会員の原口祐子様宅です。手入れの行き届いたお庭、古民家というのでしょうか立派なお屋敷。そして何よりも目を楽しませてくれる時代物の家具調度品の数々に圧倒されました。そんな昂ぶる気分の中で始まった楽しいお喋りとお食事会。その日の献立は原口会員の手作りお料理の数々、なかでも薪で炊いたご飯のおにぎりは絶品でした。ウーン幸せ！、心の底から感激したことが昨日の事のように思い出されます。

参加者は愛甲三郎・京子仲良しご夫妻、あと3年で百歳を迎えられる境聡子さん、

何事にも前向きで素敵な尾里裕子さん、元気いっぱい松本寿子さん、お淑やかな上熊須伸子さん、食べることの大好きな私、そしておもてなし上手な原口ご夫妻でした。おいしいお食事を頂きながらの会はお話が尽きません。コロナの影響でステイホームする中、きつとお喋りに飢えていたのでしようね。夢中になって語り合う中に得る



参加者全員(9人1人撮影者)左端原口副会長、その隣趙美麗

ものも沢山ありました。3密にならないよう、窓いっぱい開けて、しばしコロナもどこかへ飛んで行ったようです。

そこで、会の名前は何にしましょうかとなりまして、「ペチャクチャ会」に決定しました。いい感じ(笑い)・・・

今年はコロナで始まり、猛暑、台風そしてまたインフルエンザの時期を迎えようとしております。もうほんとうに憂鬱になる事ばかりです。がしかし、朝の来ない夜はないと申します。いつかきつとマスクも要らない、皆と心おきなく話せる日がかならず来る事を信じます。よく食べて、よく寝て、よく笑い、免疫力をアップして立ち向かいます。



薪でも最高のおにぎりは美味しい料理で炊いたご飯のおにぎりは最高



「日本人の優れたところ」前号の続き

## 日本語

熊本「新老人の会」初代代表伊佐 二久(98)

私は、先の戦争のあと、焦土と化した日本が見事に復興し発展してきた様を見るにつけ日本人は優秀な国民であることを感じ信じるようになりました。

それで前号でその理由について私なりに書いてみました。しかし、その中でもっと強調しておきたいことがありますので続きとして書いてみます。

それは私たちが使っている日本語です。日本語の文字は漢字、平仮名、片仮名の三つあり、この事が日本人を優秀な国民にした理由の一つと思うのです。

日本人は子供の時から複雑な言葉に慣れて、考え方が柔軟で複雑事にも適応できるのだと思います。

平仮名を公的に用いたのは50年前で、それまでは公文書は全て漢字と片仮名でした。大日本帝国憲法もそうです。漢字は本来表意文字で、平仮名、片仮名は表音文字ですが、韓国のハングル語や中国語、ラテン語などに比べると音の表現が少ない。漢字は昔、中国から伝わりましたが、日本以外でも昔の韓国、モンゴル、ベトナム、マ

レーシアなどでも使われていました。今は使われていませんが。日本の漢字は約5万語ですが中国では20万語あります。日本では読み方が音読み、訓読みと複雑ですが、これも便利で日本人の柔軟性を示すものでしょう。万葉仮名では漢字を意味でなく音で使い、古事記も万葉仮名で記載されています。昔の文化はすべて中国伝来ですが、

当時の日本にはまだ文字がなく太安万呂（おおのやすまろ）は古事記の序文に「苦心して漢字と万葉仮名の混合で書き上げた」と述べています。万葉仮名では「あ」は阿、安、英、足の4文字が使われていません。平仮名は平安時代の女性文字として発展し、そのため男性は使用をためらいました。紀貫之は女性に成りすまして平仮名で土佐日記を書き、最古の片仮名文書は東大寺に残る成実論(828年、天長5年)です。片仮名を50音表として整理したのは天台宗の安然(あんねん、800年代後半?)で、お経に片仮名で振り仮名をつけたと言われています。この片仮名が今は外来語の表現に大いに役立っています。

ところで、昔は小学校で「いろは」を教えていましたが、今はありません。48文字を1回しか使わずに和歌を作るとは日本人としては誇りに思っていますので教科書に

復活したいと思っっているのは私ばかりではないでしょう。文科省も検討して頂きたいと思っています。

天草にいた時、英語教師の若いアメリカ人女性から「日本には睦月(正月)、如月、弥生、卯月、皐月、水無月、文月、葉月、長月、神無月、霜月、師走という美しい言葉があるのに何故使わないのか」と聞かれ返答に窮したことがあります。一月、二月は分かり易いが、外国でも数字は使われないし、美しい日本語は残しておきたいものです。外国人から言われて反省しました。



(写真説明) 伊佐先生が結婚されたのは戦後まもなくで式らしいことは出来なかった。それを聞いてお孫さんたちが結婚70年目に式を挙げてくれたそうです。教会で神父さん立ち合いで行われた結婚式。97歳の新婚さんです。

(小山和作)

誌上で「城下町を歩く」

報恩寺と子雷

代表 平川 寛(79)

坪井3丁目にある「報恩寺」をご存知でしょうか。同寺は曹洞宗の古刹で山頭火ゆかりの寺としても知られています。創建は永承年間(1504~1520)と云われるので、戦国時代です。この寺に面白い伝承があるので、今回はそれをお話しいたします。

ある年の夏のこと、本堂の屋根に落雷が



ありま  
した。  
屋根瓦  
が何枚  
か割れ  
た程度  
の軽微  
な被害  
で済み

ましたが、不思議なのはゴロゴロと鳴る雷鳴が本堂の天井で鳴りつづけていることです。住持は法力のある僧侶で、「ヤアツ・！」と鋭い気合いを懸けると、どさりと落ちて来たのは気絶している子供の雷でした。その子雷は、落雷に慣れてなくて、落



壺井

ちてはみ  
たものの、  
天に帰る  
ことがで  
きずに、  
まごまご  
している  
ところを  
住持の法  
力に絡め  
取られて  
しまった

のでした。

それから3年の間、子雷はこの寺で修行させられます。修行といっても經典の学習などはあまりなくて、境内や本堂の掃除、墓所の草取り等寺の雑用をさせられました。住持の肩もみ、晩酌の酒買いなども子雷の担当とされました。

三年経って、いよいよ天に帰る日がきました。子雷は立派な青年雷に成長して、今ではお経を読むこともできて、檀家の人たちからは「カミナリさん」と呼ばれて慕われています。名残りつきない別れでしたが、子雷はお世話になったお礼にと、境内の隅

にある古井戸に清水を湧かせて置土産としました。この井戸は中間部が膨らんで壺の形をしているので「壺井」と呼ばれ、それがいつしか「坪井」になり地名となります。この井戸に湧く清水には薬効があり坪井村の人たちはこれを飲んで病気を治したと伝わっています。

いつの頃か、清水は涸れてしまいました。井戸は遺っていて、傍に説明板が建っています。

### 山頭火の句碑

けふも托鉢

ここのもかしこも

花ざかり

山頭火

種田山頭火は放浪の俳人と云われます。普通の職業に就いて普通に暮らすこと出来た人が収入の手段でした。この句なども托鉢の途次に来たものです。



山頭火の句碑

事務局通信 事務局長 久米野安俊

## 【新入会員紹介】

米原 範 雄 様 (86) 東区沼山津  
喜久子 様 (77)

## 【11月～1月の行事について】

### 忘年会・・・中止

新型コロナウイルス感染防止の観点

○ 多人数の参加が見込まれ、密集・密接状態が予想される

○ 会食を伴う行事で、マスクを着用しない場合が多い

○ 会場に音楽や、歌が流れることで、大きな声での会話が予想される

等々、感染のリスクが大きい事から今年度の「忘年会」は中止させて頂いた事になりました。歌や踊りもなく、お喋りさえ儘ならない状況では、何とも味気ない集まりになってしまおうと思います。大変申し訳ございません。ご理解いただきます様お願いします。

日野原重明先生の

105歳どうしても遺したかった言葉

生きていくあなたへ



### 注文・販売のお知らせ

会報7月号の送付と一緒に右記の本を会員の皆様にお送りしたところですが、皆様から「良い本を有難うございました。」とのお声が多数届きました。また、同時に「友人にも呼んでもらいたいが購入できないか…」とのお声もありましたので、ご希望される方があれば、事務局で取りまとめ出版社に注文します。会員価格として一冊税込み「600円」です。定価よりも少しですが、お安くなっております。

ご希望の方は事務局までお電話下さい。  
電話：(096)(221)(5113)

携帯：(090)(4999)(0039)

## 編集後記

『平和特集号』夏は終戦・原爆被爆・空襲と戦争の記憶を呼び起こす季節です、今年には戦後75周年ということもあり、マスクミ初め様々な団体、個人の発言が目立ちました。熊本「新老人の会」の会員の方々の活躍も色々な形で報道されました。本号に掲載されなかった活動もあったと思います。

「巻頭言」にもあるように、戦争の記憶を留め、次世代に平和な社会を継承するための『平和ミュージアム』の建設を私たち「新老人の会」の責務として実現させようとの大きな運動も提起されています。

本号には日野原先生の本の感想が寄せられました。コロナ禍で私たちの活動も大きく制限されていますが、様々な工夫でこの困難を乗り越えておられると思います。それらの体験などもお寄せ頂くと有り難いですね。原稿は左記までどうぞ。

〒861-8006 熊本市北区龍田陳内3-24-21

安藤富士記

編集委員

安藤富士記 加藤美寧 久米野安俊 佐藤武敬

津川光星 中川久 平川寛 堀田耕三 宮本英一

(協力) 宮本誠治 牛嶋祐樹

★ 熊本「新老人の会」 サークル・教室等開催予定 ★

サークル名	会場・時間	10月	11月	12月	1月	代表連絡先
カラオケ同好会	銀座通り水田ビル 地下1階「プレール」 13時～16時	毎月第2・第3水曜日 参加希望者は、事前に代表に 電話で申し込んで下さい。				山内 良一 323-1253
戦争を語り継ぐ会	ウェルパルクまもと 14時～16時	26日 (月)	23日 (月)	21日 (月)	未定	安藤富士記 339-2537
童謡・唱歌を歌う会	11月7日(土) 13時 県民交流館パレア会議室9 「歌う会」の集い開催	県民交流館パレアの規定で音楽室の 使用は出来ず、歌は歌えませんが、 皆で、近況を語り合しましょう。 詳細は代表から連絡があります。				牛嶋 邦子 090-3664-1851
健康麻雀クラブ	銀座通り竹葉ビル3階 雀荘「憩」 13時～16時	毎月第4水曜日				津川 光星 090-8298-0101
俳句教室 「鶴亀句会」	県民交流会館パレア 第3金曜日 10時～12時	16日 (金)	20日 (金)	18日 (金)	15日 (金)	佐藤 武敬 364-0612
川柳教室	県民交流会館パレア 第5会議室 13時～15時30分	毎月第4火曜日				森上 裕子 352-9307
スポーツ吹き矢 クラブ	ウェルパルクまもと 10時～13時	当分の間休止します。				原口 祐子 273-1788
オープンハウス 「KATARO」	井芹邸 13時～15時	第1水曜・第3火曜 参加希望の方は 5日前までにお電話下さい				瀧口 巖 381-7582
城下町を歩く会	河原町・呉服町界限 参加人数の制限があります。	11月8日(日) 参加希望者は、事前に代表に 電話で申し込んでください。				平川 寛 367-1655
グランドゴルフ	当分の間休止します。					

※日時の変更の場合もあります。経費が必要な場合もあります。詳細は各代表にお尋ね下さい。

※新型コロナウイルス感染状況が完全に終息していないために、会場が使用できないなどの理由で当分休止を余儀なくされているサークルがあります。ご理解下さい。

※「カラオケ同好会」「城下町を歩く会」は、3密を防ぐ意味で、人数を制限して実施します。参加人数把握のために、事前に参加申し込みが必要です。各代表にお電話で申し込んで下さい。